

平成 23 年東北地方太平洋沖地震に関する成果報告シンポジウムで越村准教授が報告しました(2011/8/20)

8月20日(土)、地震・火山噴火予知研究計画シンポジウム実行委員会が主催する「平成23年東北地方太平洋沖地震に関する成果報告シンポジウム」が、トラストシティカンファレンス・仙台(宮城県仙台市)にて開催されました。このシンポジウムは、今回の超巨大地震及び大津波の実態、地震前にわかっていたこと、新たにわかったこと、今後の課題を明らかにし、今後進めるべき地震研究の方向について議論するために、今回の地震・津波に関する情報交換や今後の研究の方向についての意見交換のために開催されました。①長期的な地震サイクルからみた東北地方太平洋沖地震、②本震発生前の東北地方のプレート間固着状態、③本震発生前の地殻活動や諸元、④本震の地震断層のすべり分布、⑤大津波発生のメカニズム、⑥アスペリティモデルと本震、⑦本震後の余効滑りと誘発された地殻活動、といった7つのセッションに分かれて、調査・研究の報告や議論が行われました。当センターからは、⑤のセッションで越村准教授が津波遡上高・津波災害の調査を踏まえた今般の大津波の発生メカニズムに関する報告がなされました。会場は、ほぼ満席でセッション中はもちろんのこと、休憩中にも活発な質疑・議論が行われました。

報告題目

越村俊一：津波遡上高・津波災害から見る大津波発生のメカニズム



調査・研究報告の様子



質疑応答の様子